

平成 19 年 3 月 22 日

東北大学流体科学研究所(情報科学研究科協力講座)

教授 大林 茂

国際研究集会名 (和名) 第 4 回進化型多目的最適化に関する国際会議

(英文) The 4th International Conference on Evolutionary Multi-Criterion Optimization

開催期間 平成19年3月5日 ～ 平成19年3月8日 (4日間)

開催地(会場) 宮城県宮城郡松島町松島字犬田10-76 (ホテル大観荘)

主催者名 東北大学流体科学研究所

共催者名 東北大学情報科学研究科、宇宙航空研究開発機構、関西大学政策グリッドコンピューティング実験センター

進化型多目的最適化に関する国際会議について

近年、多目的最適化問題に進化論的計算手法が効率等の面から有効であることが示され、進化型多目的最適化として新しい学術分野が形成されると共に盛んに研究活動が行われている。進化型多目的最適化手法は、産業界での新しい設計手法として積極的に適用されており、産学が協調してこの学問分野を発展させている。このような状況のもとで、進化型多目的最適化に関する国際会議(EMO)は世界中の進化型多目的最適化に関係する研究者・企業関係者が一堂に会し、活発な議論を通じて、相互の交流を深める場として企画された。第1回が2001年3月スイス、第2回は2003年3月ポルトガル、第3回は2005年3月メキシコにて開催され、今回第4回は宮城県松島にて開催された。

実行委員会・国際プログラム委員会

16名(内4名が東北大学)の国内委員からなる実行委員会を組織し、準備にあたった。投稿論文の査読のために国内実行委員を委員長とし101名の国際委員からなる国際プログラム委員会を組織し、投稿論文を精査した。投稿論文は124件(30カ国)より65編(24カ国)を採択した。なお、Proceedingsは、会議の開催に合わせ Springer より出版された。

EMO2007 概要

招待講演者4名に加え、26ヶ国より96名(内60名が海外より)の参加登録があり、口頭発表が26編、ポスター発表が39編行われた。多目的最適化に関わる重要なテーマや実問題への応用例について、最後の閉会の挨拶まで活発な議論が行われた。次回2年後の開催に向け、3件の開催立候補があり、今後 EMO steering committee で開催地を決定することになった。



口頭発表の様子



学生表彰の様子



ポスター発表の様子



閉会時の集合写真